

## 履修モデル（経済学研究科博士前期課程）

本大学院経済学研究科は、以下のような3つの目的を持って設立されています。第1は、経済・経営の専門分野において広く深い知識をもつ職業人を育てること 第2は、その専門分野における高度な研究を行う能力をもつ研究者を育てること 第3は、現職、あるいは退職後の社会人に対して、リカレント教育を行うこと

上記の目的を達成するため、本研究科では経済学と経営学の2つの専攻を有しています。各専攻がどのような分野の研究ができるかを例示するために、各分野の講義科目などを紹介し、博士前期課程の各分野の「履修モデル」の一例を提示します。

これはあくまでも一例で、履修要件ではありませんので、各自の研究目的に合わせて、指導教授と相談しながら履修計画を立ててください。

### 【経済学専攻】

履修科目（例）		
経済理論・ 経済学史 分野	例えば、経済学の歴史などを研究したい人は、経済学史研究の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（経済理論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（経済学史）
		演習Ⅰ・Ⅱ（社会科学論）
	右記の講義科目の中から、経済学史特殊講義や社会思想史特殊講義などを選びます。	経済理論特殊講義
		経済学史特殊講義
		社会科学論特殊講義
		再生産・蓄積論
		社会理論研究
		古典派資本蓄積論
	近代経済分野	例えば、企業・シンクタンクなどで経済分析をしたい人は、マクロ経済学研究の指導教授の演習を選びます。
演習Ⅰ・Ⅱ（現代経済）		
演習Ⅰ・Ⅱ（経済統計学）		
演習Ⅰ・Ⅱ（情報処理論）		
演習Ⅰ・Ⅱ（経済数学）		
演習Ⅰ・Ⅱ（理論経済学）		
右記の講義科目の中から、現代経済特殊講義や統計学特殊講義などを選びます。		マクロ経済学特殊講義
		ミクロ経済学特殊講義
		理論経済学特殊講義
		現代経済特殊講義
		統計学特殊講義
		情報処理論特殊講義
		情報経済論特殊講義
		経済数学特殊講義
		ゲームの理論研究
		情報の意思決定
		契約の経済理論
		経済動学の理論
		動学的一般均衡理論
		協力ゲームの理論
空間統計学		

応用経済分野	例えば、金融や労働経済などを研究したい人は、金融論や労働経済論の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（経済政策論）		
		演習Ⅰ・Ⅱ（財政理論）		
		演習Ⅰ・Ⅱ（地方財政）		
		演習Ⅰ・Ⅱ（金融論）		
		演習Ⅰ・Ⅱ（国際金融論）		
		演習Ⅰ・Ⅱ（労働経済論）		
	右記の講義科目の中から、金融論特殊講義や労働経済論特殊講義などを選びます。	経済政策論特殊講義		
		財政理論特殊講義		
		地方財政特殊講義		
		金融論特殊講義		
		国際金融論特殊講義		
		労働経済論特殊講義		
		銀行行動論		
		都市マネジメント論		
経済史・世界経済分野	例えば、世界の経済やその歴史などを研究したい人は、経済史研究の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（日本経済史）		
		演習Ⅰ・Ⅱ（アメリカ経済論）		
		演習Ⅰ・Ⅱ（国際経済学）		
	右記の講義科目の中から、経済史特殊講義やアメリカ経済論特殊講義などを選びます。	経済史特殊講義		
		日本経済史特殊講義		
		アメリカ経済論特殊講義		
		国際経済学特殊講義		
		開発経済学特殊講義		
		グローバリゼーションの経済学		
		日本都市経済史		
		西洋都市経済史		
		国際政治経済の数理分析		
		共通分野	例えば、税理士を目指す人は、税法の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（現代政治論）
				演習Ⅰ・Ⅱ（メディア文化論）
演習Ⅰ・Ⅱ（現代中国論）				
演習Ⅰ・Ⅱ（税法）				
右記の講義科目の中から、租税法、所得税法、法人税法などを選びます。	現代政治論特殊講義			
	現代中国論特殊講義			
	前近代史特殊講義			
	ジェンダー論特殊講義			
	メディア文化論特殊講義			
	自然地理学特殊講義			
	青少年問題の社会学特殊講義			
	環境学特殊講義			
	金融技術論			
	租税法			
所得税法				
法人税法				
国際政治の諸問題				
戦後日中関係				
前近代の交易と東アジア				
ジェンダーと経済				
メディアと社会思想				
地理情報科学概論				
現代日本の若者と文化				

	地球環境学特論
--	---------

【経営学専攻】

		履修科目（例）
経営学分野	例えば、経営学の理論などを研究したい人は、経営学担当の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（経営史）
		演習Ⅰ・Ⅱ（経営学）
		演習Ⅰ・Ⅱ（経営管理論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（現代企業論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（国際経営論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（経営組織論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（経営財務論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（経営戦略論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（現代ツーリズム）
		演習Ⅰ・Ⅱ（スポーツ・マネジメント論）
	右記の講義科目の中から、経営学特殊講義、経営管理論特殊講義、経営組織論特殊講義などを選びます。	経営史特殊講義
		経営学特殊講義
		経営管理論特殊講義
		現代企業論特殊講義
		国際経営論特殊講義
		経営組織論特殊講義
		経営財務論特殊講義
		経営戦略論特殊講義
		現代ツーリズム特殊講義
		スポーツ・マネジメント特殊講義
例えば、経営情報理論やIT企業の経営モデル、事例などを研究したい人は、経営情報研究の指導教授の演習を選びます。	自動車産業史	
	工業経営論	
	非営利組織の経営	
	企業と社会	
	企業評価論	
	組織の経済学	
	イノベーション・マネジメント	
	国際ビジネス	
	観光まちづくり	
	プロスポーツビジネス論	
右記の講義科目の中から、経営情報システム論 特殊講義や意思決定論特殊講義などを選びます	人材管理	
	組織における人間行動	
	演習Ⅰ・Ⅱ（経営科学応用論）	
	演習Ⅰ・Ⅱ（意思決定論）	
	演習Ⅰ・Ⅱ（組織とIT経営）	
経営情報分野	経営科学応用論特殊講義	
	意思決定論特殊講義	
	組織とIT経営特殊講義	
	コラボレーションシステム論	
	ナレッジワーク論	

流通・マーケティング分野	例えば、流通やまちづくりなどを研究したい人は、流通分野の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（現代流通論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（マーケティング論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（流通システム論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（マーケティング・コミュニケーション論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（国際マーケティング論）
	右記の講義科目の中から、現代流通論特殊講義、流通システム論特殊講義、商業まちづくりの国際比較、地域商業論などを選びます。	現代流通論特殊講義
		マーケティング論特殊講義
		流通システム論特殊講義
		消費者行動論特殊講義
		マーケティング・コミュニケーション論特殊講義
		国際マーケティング論特殊講義
		商業まちづくりの国際比較
		グローバルマーケティング
		地域商業論
		ブランド・コミュニケーション
マーケティングと国際知識移転		
ブランド・マネジメント論		
会計分野	例えば、我国の会計制度を研究したい人は、制度会計論担当の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（会計学）
		演習Ⅰ・Ⅱ（管理会計論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（制度会計論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（財務会計論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（コストマネジメント論）
	右記の講義科目の中から、会計学特殊講義、国際会計論特殊講義、制度会計論特殊講義、財務会計論特殊講義、税務会計論特殊講義などを選びます。	会計学特殊講義
		管理会計論特殊講義
		制度会計論特殊講義
		財務会計論特殊講義
		税務会計論特殊講義
		コストマネジメント論特殊講義
		会計とディスクローチャー
		監査制度論
		国際会計論
		ライフサイクル・コストニング
民間非営利組織会計		
キャパシティ・マネジメント		
地方財務会計論		
共通分野	例えば、ジェンダー論を研究したい人は、ジェンダー論研究の指導教授の演習を選びます。	演習Ⅰ・Ⅱ（東アジア前近代史）
		演習Ⅰ・Ⅱ（ジェンダー論）
		演習Ⅰ・Ⅱ（青少年問題の社会学）
	右記の講義科目の中から、ジェンダー論特殊講義やジェンダーと経済などを選びます。	現代政治論特殊講義
		現代中国論特殊講義
		前近代史特殊講義
		ジェンダー論特殊講義
		メディア文化論特殊講義
		自然地理学特殊講義
		青少年問題の社会学特殊講義
		環境学特殊講義
		金融技術論
		租税法
		所得税法
		法人税法
国際政治の諸問題		
戦後日中関係		
前近代の交易と東アジア		

		ジェンダーと経済
		メディアと社会思想
		地理情報科学特論
		現代日本の若者と文化
		地球環境学特論

### 3. 履修モデル（経済学研究科博士後期課程）

本大学院経済学研究科は、以下のような3つの目的を持って設立されています。

第1は、経済・経営の専門分野において広く深い知識をもつ職業人を育てること

第2は、その専門分野における高度な研究を行う能力をもつ研究者を育てること

第3は、現職、あるいは退職後の社会人に対して、リカレント教育を行うことを目的としています。

この目的を達成するため、本研究科では経済学と経営学の2つの専攻を有していますが、各自がどのような分野の研究ができるかを例示するために、各分野の講義科目などを紹介し、博士後期課程の各分野の「履修モデル」の一例を提示します。

これはあくまでも一例で、履修要件ではありませんので、各自の研究目的に合わせて、指導教授と相談しながら履修計画を立ててください。

## 【経済学専攻】

分野	履修科目（例）	
経済理論・ 経済学史分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経済学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	経済理論特殊研究
		社会科学論特殊研究
		経済学史特殊研究
近代経済学分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経済学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	現代経済特殊研究
		経済統計学特殊研究
		経済数学特殊研究
情報処理論特殊研究		
応用経済分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経済学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	経済政策特殊研究
		財政理論特殊研究
		地方財政特殊研究
		金融論特殊研究
		国際金融論特殊研究
労働経済論特殊研究		
経済史・ 世界経済分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経済学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	日本経済史特殊研究
		アメリカ経済論特殊研究
共通分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経済学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	現代政治論特殊研究
		現代中国論特殊研究
		ジェンダー論特殊研究
		前近代史特殊研究
メディア文化論特殊研究		
青少年問題の社会学特殊研究		

## 【経営学専攻】

経営学分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経営学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	経営史特殊研究
		経営学特殊研究
		経営管理論特殊研究
国際経営論特殊研究		
		経営財務論特殊研究
		現代企業論特殊研究
経営情報分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経営学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	意思決定論特殊研究
経営科学応用論特殊研究		
流通・マーケティング分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経営学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	現代流通論特殊研究
		流通システム論特殊研究
	マーケティング・コミュニケーション論特殊研究	
	マーケティング論特殊研究	
会計学分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経営学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	会計学特殊研究
		管理会計論特殊研究
	財務会計論特殊研究	
	原価管理論特殊研究	
共通分野	指導教授の担当する演習科目について、演習Ⅰから順に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを3科目（12単位）	演習Ⅰ
		演習Ⅱ
		演習Ⅲ
	経営学専攻の講義科目を1科目4単位以上履修しますが、指導教授の講義科目を中心にするのが望ましい。	現代政治論特殊研究
		現代中国論特殊研究
		ジェンダー論特殊研究
		前近代史特殊研究
	メディア文化論特殊研究	
	青少年問題の社会学特殊研究	